

## 【展覧会】

インドネシアで評判を呼んだ展覧会、NO-MAに凱旋！

# ときどき、日本とインドネシア



2018年10月。インドネシアで開催された展覧会、「ときどき TOKIDOKI—日本のアール・ブリュット in インドネシア—」。大盛況だったこの展覧会を、インドネシアのアール・ブリュット作品と共に再構築し日本の皆さまにお披露目いたします。

展覧会タイトル「ときどき」には、「この展覧会をきっかけに、一定の期間を置いたとしても繰り返し、インドネシアと日本の芸術文化交流が続いていくように」という意味を込めています。インドネシア展に次ぐ本展は、わたしたちがタイトルに込めた願いの、ひとつの実現のかたちと言えるでしょう。

会期：2019年3月2日(土)～6月2日(日)

場所：ボーダレス・アートミュージアム NO-MA

## 【展覧会の見どころ】

- 日本の作者8名と初公開のインドネシアの作者3名による作品を展示
- NO-MAに凧が舞う？ 美術家・北澤潤とのアートプロジェクト「ひとときのミュージアム」も展示
- はたよしこ（NO-MAアートディレクター）「ボーダレス・アート」を巡る言葉の展示も必見

## 【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA）  
 担当：鈴木・松井・山田 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837番地の2  
 TEL：0748-46-8100 FAX：0748-46-8228 MAIL：kikaku@glow.or.jp

## 展覧会概要

タイトル ときどき、日本とインドネシア  
会 期 2019年3月2日(土)～6月2日(日)  
会 場 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA (滋賀県近江八幡市永原町上16)  
開催時間 11:00～17:00  
休 館 日 月曜日(祝日の場合は翌日)  
観 覧 料 一般300円(250円) 高大生250円(200円) 中学生以下無料  
※障害のある方と付添者1名無料 ( )内は20名以上の団体料金  
主 催 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、  
社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～  
後 援 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会  
協 力 一般社団法人近江八幡観光物産協会、社会福祉法人しみんふくし滋賀

## インドネシアでの展示風景



舞台となったインドネシア国立美術館



展示される日本のアール・ブリュット



美術家・北澤潤によるひとときのミュージアム



作品をのぞき込む現地の方々

## 出展者紹介（広報画像用）

### 日本のアーティスト

#### 戸來 貴規 Herai Takanori 1980年生まれ／岩手県在住

不思議な幾何学模様が描かれたB5判の紙が、高さ約30cmに積み上げられて、事務用の紐で無造作にとじられている。描かれているものについて施設の職員は「実はこれは文字です。彼の日記なのです」と言った。作品が発見されたのは、彼が現在暮らす施設の職員によってであった。彼の描く連続模様の美しさに心惹かれた2人の女性職員が丹念に歩み寄り、薄皮を剥ぐようにして表現の謎を1枚ずつめくり始めたのだった。



①「にっき」2000-2006年

#### 岩崎 司 Iwasaki Tsukasa 1928年～2006年／岩手県

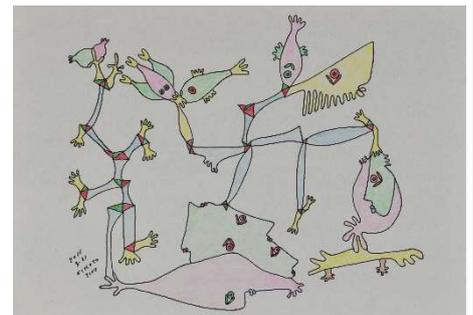
絵は新聞広告の紙で額縁のような装飾が施されている。病院内で入手できる紙は限られているので、描いていると薄くてすぐ曲がってしまう。そこで広告チラシを堅く巻いて、何本も絵の裏に張り付けると、曲がり方が防げるといことを彼は思いついたという。55歳で精神を病んで入院生活になるまでは、魚屋を営み、39歳からは市議員を務めていたという彼は、長年、短歌をたしなんできた。病院内で描き始めた絵はその詩歌と合体し、自らの理想世界を高らかに歌い上げる究極の詩歌画となった。



②「無題」制作年不詳

#### 木本 博俊 Kimoto Hirotochi 1949年生まれ／愛知県在住

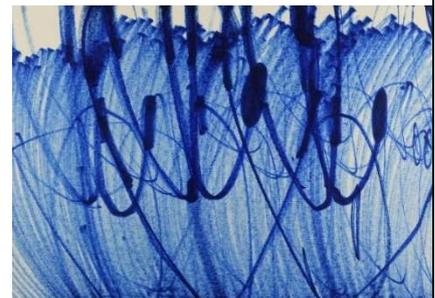
木本の絵はテーマがいくつかあるが、その全てに共通するのが「繋がり」そして「増殖」だ。ゆるやかにダンスを踊っているようなヒトも、不思議な形の生き物も、植物のようなものも、そのほとんどがお互いに繋がり合っそして時に離れたりする。その繋ぎ目には、三角形が描かれている。この部分は、木本にとっては何か気になる部分、大切な部分だという。



③「無題」2011年

#### 木村 茜 Kimura Akane 1983年生まれ／滋賀県在住

一枚の絵は約2～3分で一気に描き上げる。途中で少しでもインクがかすれてきたマーカーペンは即座に取り替え、流れるリズムの快感を彼女は必死でキープしている。「お線香花火」「うちわ」「注射がंबरろうね」「緑のドレミ」それぞれに自分で名付けた独自のモチーフ名をつぶやきながら描画行為への陶酔はどんどん深度を増してゆく。



④「下駄」2011年

**三橋 精樹 Mitsuhashi Seiki 1943年生まれ／滋賀県在住**

彼の絵は鉛筆1本で描かれている。はじめに鉛筆でかなり細密な線画の描写がしてあるのだが、その後すべてが鉛色で黒々と塗り込められていくため、一見漆黒の平面のように見える。しかし斜めから見ると、はじめの線画が強い筆圧による紙の凹凸となって浮き出て見える。古くは5歳の頃の記憶から、若い頃自転車で通った様々な場所の風景、また最近見たテレビ番組にいたるまで、記憶の光景は多岐に渡っている。



⑤「無題」制作年不詳

**佐藤 朱美 Sato Akemi 1981年生まれ／北海道在住**

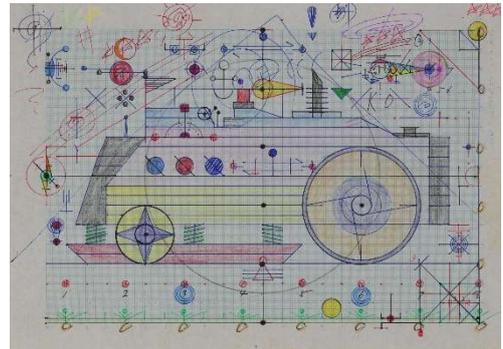
作品の中にひしめく形とポップな色彩との調和は特有のルールから生み出されている。画材は主にアクリル絵の具と水性ペンを使用し、絵の大枠を象るモチーフは図鑑などから自由に選んでいる。また絵の中に現れ出る不思議な形と色合いが強く混じりつけない刺激的な配色は、「頭の中に見えてくるイメージに従い、描いている。」とのことだ。



⑥「楽園」2015年

**山崎 健一 Yamazaki Kenichi 1944年～2015年／新潟県**

山崎は入院していた精神科病院で、毎日規則正しいペースで絵を描いていた。作品はいずれもほとんど同じ手法、つまりはコンパスの針で何目盛りか置きに穴を開け、それをアタリにして線を引きカタチが描かれている。だから紙の裏面は規則正しく並んだ無数の針穴で、まるでレース布のように美しい模様になっている。3000枚近い作品が丁寧に1枚1枚、彼自身によってファイルに整理されていた。



⑦「無題」制作年不詳

**吉澤 健 Yoshizawa Takeshi 1966年生まれ／東京都在住**

ノートは、端から端までアラビア文字のような文字群で埋め尽くされ、ノートの表紙と裏表紙は雑誌や新聞・公告などの切抜きで幾重にもコラージュされ出来上がっている。アラビア文字に見える文字群は、有名企業名（銀行や自動車メーカー、製薬会社等）や彼の外出した行程や使用したお金などをしめす日記メモが延々と書き綴られているのである。そして、ノート1冊を書き埋め尽くすとノートの側面をセロハンテープガチガチにとめ、開かないように封印してしまう。



⑧「無題」制作年不詳

## インドネシアのアーティスト

### ドゥイ・プトロ Dwi Putro ジョグジャカルタ/1963年生まれ

ドゥイが描くのは、インドネシアの伝統的な影絵芝居「ワヤン・クリ」に登場する人形、あるいは女性像。いずれの絵も、キャラクター性が際立っており、のびやかに構図で描かれている。ワヤンの人形を描き始めたきっかけは、幼少の頃、実家の近くで開かれたワヤンを、観たかったが叶わなかったという苦い経験が関係している。それならば自分で作り出そうという発想で、思いを吐き出すように家の壁に描き始めたという。

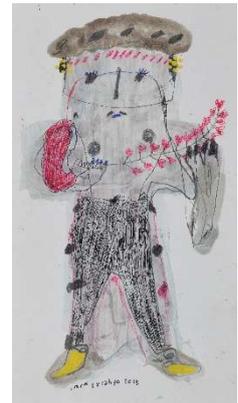


⑨「無題」2013年

### イマム・スチャヒョ Imam Sucahyo バリ/1978年生まれ

インドネシア東部ジャワの北海岸にあるトゥバンに生まれたイマムは、2000年頃から絵を描き始めた。タバコの空き箱を解体した白い面や紙の切れ端など、どこにでもある素材に日々、絵を描いている。一方、100号を超える巨大なカンヴァス作品も多く制作しているが、トゥバンでカンヴァスの入手が困難であるため、彼が所属するギャラリー、Cata Odata（インドネシア・バリ）が材料提供を行っている。大きな作品は自宅で描き、小作品の制作場所は選ばない。家にいようが、外にいようが、どこでも常に描いているという。

作品は様々な色で彩られるものの、ベースとなる色は青色であることが多く、これは、海に関連する色として、好んで使用される。



⑩「LOVE LEAVES」2015年

### アフマッド・ヤニ Ahmad Yani トゥバン/生年不詳

ジャワ島の東部に位置するトゥバンの街の、とある地区。壁に言葉や詩を書いている男性がいたら、地元の人に案内されて知るところとなった。その男性が住んでいる地区の住宅や塀に書かれており、一带の入り組んだ路地を歩くとあちらこちらにあるのが見つかる。文章全体として何が書かれているのか地元の人たちに聞いても「詩的な表現で……」と把握しきれない様子がある。



⑪「タイトル不詳」制作年不詳

## パートナーアーティスト

### 北澤 潤 Kitazawa Jun 1988年生まれ

北澤とボーダレス・アートミュージアム NO-MA によるアートプロジェクト《ひとときのミュージアム》では、北澤はインドネシアの「即興的な文化」に着目している。北澤は、風が吹く瞬間を捉えて人びとが風で遊ぶインドネシアの文化を引用することで、わたしたちの空を誰もが自らを表現することを可能にする「ひとときのミュージアム」に変えることを企てた。ここでの新たな風遊びは、社会に対するデモンストレーションの新たな手段であり、だれしもが参加し風を表現の支持体にすることで美術館の新たな形式とも言える。



《ひとときのミュージアム プラン展示》

## 展覧会関連イベント

### トークイベント「障害のある人の家族と生活支援員が、「行為」を「作品」と捉えたとき」

出展作家である戸來貴規が初めて展覧会へ「につき」を出品するまでの数々のエピソードを、失敗談も交えながら元支援者が語ります。

日時：2019年3月23日（土）13：30～15：00

語り手：田端一恵（社会福祉法人グロー 企画事業部）

ゲスト：戸來茂（戸來貴規さん父）

会場：奥村家住宅（滋賀県近江八幡市永原町上8）

定員：30人（要予約）

参加費：観覧料 ※既に展覧会をご覧の方はチケットの半券をご提示ください。

### トークイベント「ときどき、日本の中のインドネシア」

技能実習生への日本語教育やガイドなど、多岐に亘り活躍をしている近江八幡在住のムハマッドさん。本展の中にみるインドネシアを深掘りしていただくとともに、日本の不思議や面白さ、自国との違いや共通点を楽しくお話しいただきます。

日時：2019年4月6日（土）10:30～12:00

講師：ムハマッド・ヌズライ

会場：奥村家住宅（滋賀県近江八幡市永原町上8）

定員：30人（要予約）

参加費：観覧料 ※既に展覧会をご覧の方はチケットの半券をご提示ください。

### トーク&ワークショップ「ひとときのミュージアム（Momentary Museum）」

NO-MAと美術家の北澤潤とのアートプロジェクト、「ひとときのミュージアム」。晴天時は琵琶湖畔に移動し、風屋台を交流の場として風にペインティングを施して揚げたり、語らったりします。雨天時は、インドネシアで馴染の雨合羽にペインティングを施し、近江八幡の街をお散歩します。

日時：2019年4月20日（土）

トーク 13：30～13：50 ワークショップ 14：20～15：20

パートナーアーティスト：北澤 潤

集合：奥村家住宅（滋賀県近江八幡市永原町上8）

※晴天時は前浜（〒521-1243 滋賀県東近江市栗見新田町）まで送迎バスで移動。

ワークショップ終了後は奥村家住宅に戻り解散。

定員：20名（要予約）

参加費：観覧料 ※既に展覧会をご覧の方はチケットの半券をご提示ください

## 国際交流トーク「ときどき、インドネシアとインターネット通話」

インドネシアとスカイプでつなぎ、インドネシアでのときどき展に関わった人たちと語り合います。

日時：2019年5月18日（土）13:30～14:30

話し手（予定）：ナワ・トゥンガル（アール・ブリュットコーディネーター）

スジッド・ダルタント（インドネシア国立美術館キュレーター）

聞き手：北澤潤

会場：奥村家住宅（滋賀県近江八幡市永原町上8）

定員：20人（要予約）

参加費：観覧料 ※既に展覧会をご覧の方はチケットの半券をご提示ください。

## 《同時開催》個々にあった作品鑑賞を考える2

昨年度初めて開催した、発達障害のある方々との作品鑑賞。今年度も当事者とともに、個々にあった作品鑑賞について考えます。

日時：2019年3月9日（土）13:00～15:00

講師：横井悠（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA学芸員）

会場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

定員：20人（要予約）

参加費：無料

協力：滋賀県発達障害者支援センター

# ときどき、日本とインドネシア

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部  
 (ボーダレス・アートミュージアムNO-MA) 広報宛  
 FAX : 0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

- ① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者名(大西暢夫 or Onishi Nobuo)を必ず表記ください。
- ② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。
- ③ 本展記事をご紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌(紙)、DVD、CD等をお送りください。

媒体名 :

『 \_\_\_\_\_ 』

種別 : TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー  
 ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日 :

御社名 :

ご担当者名 :

Eメールアドレス :

@

(〒 \_\_\_\_\_ )

ご住所 :

お電話番号 :

FAX :

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

|                          |                                |
|--------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | ①戸来 貴規 「にっき」 2000-2006年        |
| <input type="checkbox"/> | ②岩崎 司 「無題」 制作年不詳               |
| <input type="checkbox"/> | ③木本 博俊 「無題」 2011年              |
| <input type="checkbox"/> | ④木村 茜 「下駄」 2011年               |
| <input type="checkbox"/> | ⑤三橋 精樹 「無題」 制作年不詳              |
| <input type="checkbox"/> | ⑥佐藤 朱美 「楽園」 2015年              |
| <input type="checkbox"/> | ⑦山崎 健一 「無題」 制作年不詳              |
| <input type="checkbox"/> | ⑧吉澤 健 「無題」 制作年不詳               |
| <input type="checkbox"/> | ⑨ドゥイ・プトロ 「無題」 2013年            |
| <input type="checkbox"/> | ⑩イマム・スチャヒヨ 「LOVE LEAVES」 2015年 |
| <input type="checkbox"/> | ⑪アフマッド・ヤニ 「タイトル不詳」 制作年不詳       |

## 【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)  
 担当 : 山田・鈴木・松井 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の 2  
 TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : kikaku@glow.or.jp